

講義名	対2)日本事情C【留学生科目】			授業形態	
担当教員	藤原 喜美子	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 5 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

この講義の目的は、日本の日常生活の中にもみられる「文化」の特色を学ぶことにある。留学生が日本で生活する中で、日常の身のまわりにある事柄を取り上げ、講義を進める。日本の文化を理解し、日本での学習に役立ててほしいと考えている。

到達目標

学生が、日本の文化（慣習）について理解を深めるために、興味のあることを見つけ、自分の国との類似点や相違点を説明できるようになる。

提出課題

講義では毎回、感想文や講義の確認内容などを記入し、小レポートとして提出してもらおう。感想文のテーマは、講義ごとに伝える。小レポートとは別に、講義に関連した指定のテーマについて、レポートの提出を求める。このレポート課題の詳細は別途、5月の後半に、講義中の説明ならびにRYUKA portalの掲示を通して指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の講義で書いてもらおう感想文の内容は、提出後に次回の講義などで、日本の文化の特色を考える事例として紹介する。

評価の基準

評価は、平常点（各回の感想文や講義の確認内容などを記した15回分の小レポート、60点）、レポート（40点）を総合して行う。評価の基準は、第1回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。

履修にあたっての注意・助言他

この講義は、留学生が日本で生活するために必要な知識を得ることを目的としている。日本語で、「読む」「書く」「聞く」「話す」ことに慣れていただくような授業にしたいと思う。そのため、教室で行う授業には、ぜひ積極的に参加してほしい。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

<プリント資料>
告知用紙、プリント資料を配布する。
配布資料は無くさないように保存すること。
<参考文献>
講義中に適宜、紹介する。

授業計画

講義の進め方は、第1回の講義で説明する。

1. 日本事情Cの内容の説明
受講生の自己紹介（日本で学びたいこと）
2. 日本の住居
3. 日本の衣服
4. 日本の食事
5. 人生儀礼
6. 人生儀礼
7. 人生儀礼
8. 年中行事
9. 年中行事
10. 年中行事
11. 日本の寺院
12. 日本の神社
13. 日本の祭り
14. 受講生の発表（日本の特色と留学生それぞれの国の特色の比較）
15. まとめ
各自が考える日本の文化

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習
次回の範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してあるテーマを確認し、そのテーマについて興味のある事柄を1つ調べる。また、各回の講義の最後に、翌週の講義のキーワードを紹介するので、翌週までにキーワードなどの言葉の意味を調べておく（約2時間）。

復習
講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる感想文を課題用紙に記入する。また、自分で、その日の講義の要点（キーワードやポイント）等を確認する（約2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

留学生を対象として、日本語の4技能（聞く、話す、読む、書く）について実用的かつ基礎的な語学力を修得するとともに、合わせて日本の社会や文化について学ぶことを目的とする科目群である。必要な日本語能力を身に付け、活用することができる。この科目では、学生が、日本の文化について興味のあることを探し、日本語で説明できるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この講義は、配布資料を用いて進める。毎回、受講生が各自で自らの考えを整理し、まとめた考えを用紙に記入する時間を設ける。また、受講生が会話をを行う機会を設けることがある。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。授業担当者は日本民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、地域の特性を紹介しながら授業を行う。

備考

この講義は、留学生科目である。講義の進め方は、第1回の講義で説明する。教室では座席の間隔をあげ、教室の換気や手の消毒を励行し、感染症拡大の防止に努める。

教室で「受講生同士が会話をする」機会を設ける時間がある。会話を通して、互いの考えを共有しあう機会になれば有り難い。

日本については、まずは各自の身近な事柄から関心を持ってもらいたい。そして、自分の国の文化と比較しながら、「日本の特色」を探す機会にしてもらいたい。